

オペレーションズ・リサーチ

3

(i) $g: R^n \rightarrow R$ を微分可能な凸関数とする。以下の問 (a), (b) に答えよ。

(a) 点 $x = 0$ における関数 g の勾配を $\nabla g(0)$ と表す。次の不等式がすべての $x \in R^n$ に対して成り立つことを示せ。

$$g(x) \geq g(0) + \nabla g(0)^\top x$$

ここで \top は転置記号を表す。

(b) 関数 $h: R^n \rightarrow R$ を次式で定義する。

$$h(x) = g(x) + \|x\|^2$$

ただし $\|x\| = \sqrt{x^\top x}$ はベクトル x のユークリッドノルムを表す。集合 $S = \{x \in R^n \mid h(x) \leq h(0)\}$ は有界であることを示せ。

(ii) 次の非線形計画問題を考える。

$$\begin{aligned} \text{(P):} \quad & \text{minimize} \quad f(x) \\ & \text{subject to} \quad c_i(x) \leq 0 \quad (i = 1, 2, \dots, m) \end{aligned}$$

ここで $f: R^n \rightarrow R$ と $c_i: R^n \rightarrow R$ ($i = 1, 2, \dots, m$) は連続的微分可能とし、制約条件の添字集合を $\mathcal{I} = \{1, 2, \dots, m\}$ とする。点 $x^* \in R^n$ を問題 (P) の局所的最適解とし、点 x^* と Lagrange 乗数 $\lambda^* = (\lambda_i^*; i \in \mathcal{I})$ のペア (x^*, λ^*) は問題 (P) の Karush-Kuhn-Tucker 条件 (KKT 条件) を満たすものとする。さらに、添字集合 $\mathcal{A} \subseteq \mathcal{I}$ を $\mathcal{A} = \{i \mid \lambda_i^* \neq 0\}$ で定義し、次の非線形計画問題を考える。

$$\begin{aligned} \text{(Q):} \quad & \text{minimize} \quad f(x) \\ & \text{subject to} \quad c_i(x) \leq 0 \quad (i \in \mathcal{A}) \end{aligned}$$

次の (A), (B) の各々に対して、その命題が真であれば証明し、偽であれば反例を一つ与えよ。

(A) ある Lagrange 乗数 $\hat{\lambda} = (\hat{\lambda}_i; i \in \mathcal{A})$ が存在して、 $(x^*, \hat{\lambda})$ は問題 (Q) に対する KKT 条件を満たす。

(B) 点 x^* は問題 (Q) の局所的最適解である。